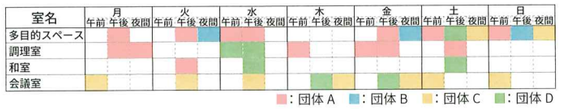
1. みんなでつくる町民の居場所

複数の機能からなる交流拠点では、それぞれの部屋をできるだけ多機能に使うことで施設全体の利便性を向上させることができます。町民、利用者の皆さんとともに施設機能を詳細に確認しながら、幌延のまちにふさわしい町民の居場所を提案します。

タイムテーブルによる利用頻度の向上

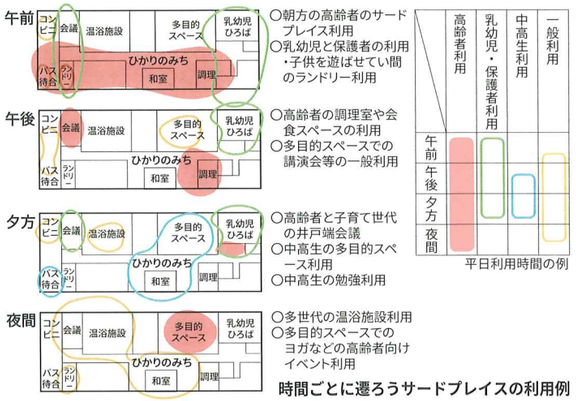
施設全体が廊下の少ない一体空間であるため、**時間によって利用範囲を変えながら自由に活用**することができます。利用時間と範囲を調整するために、曜日ごとのタイムテーブルを作成することで空間全体が効率よく使われます。また各室の利用頻度を把握し、必要性について再度議論することができます。このタイムテーブルを計画、設計段階のワークショップなどで試作することで、町民が施設を利用するイメージを持つことができます。



タイムテーブルを用いた施設利用状況の検証例

サードプレイス：時間によって変化する領域

タイムテーブルを活用することで、ひかりのみちを中心に**様々な空間がサードプレイス**として活用できます。また、使用していない空間を活用することで、お互いの距離感を保って様々な居場所がつくられます。可動間仕切、ガラス、ガラス＋カーテンなど様々な仕切を活用します。



時間ごとに遷ろうサードプレイスの利用例

時間や用途に応じたセキュリティー管理

様々な用途が混在する施設において、**時間によって部分的に開放・閉鎖**できる計画とします。例えば早朝はバス待合所とコンビニスペース、夜間は温浴施設とコインランドリーのみ開放することが可能となります。複数の出入口を設け、一部のトイレを分散させることで管理しやすい運用が可能となります。

時間ごとに切り替わる明確なセキュリティライン

道産木材の積極的な利用

構造だけでなく仕上げや建具、家具、サインなどにも道産木材の利用を検討します。日常的に過ごす交流施設にふさわしい、木のぬくもりを感じられる居場所づくりを目指します。

地元の木材を活用した実績

日常の利便性を高めるアイデアを集める

弊社がこれまでに培った複合施設の実績を本計画に活かします。生活に必要な機能を使いやすく計画し町民の利便性を高めます。

バス待合所の例（後志地方）
テーブルなどの家具レイアウトを工夫しサードプレースとしても活用

多目的スペースの例(上川地方)
イベント時の控室や事務局として会議室、会食スペース、和室などと連携

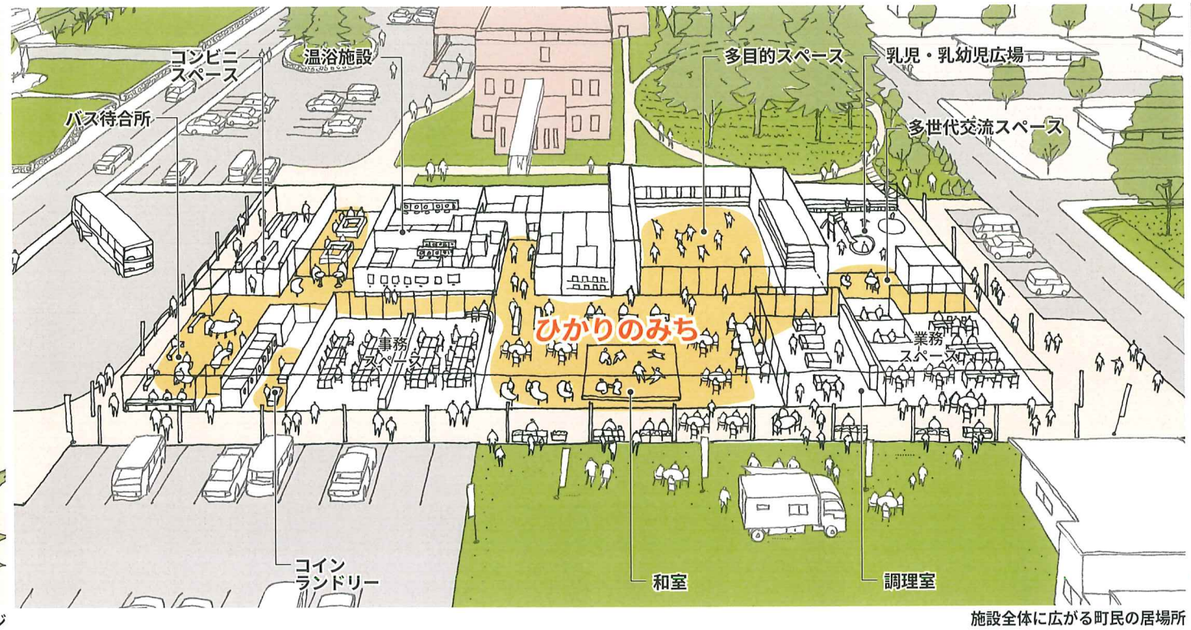
温浴施設の例（十勝地方）
２つの浴室に違いをつくり日によって男女利用を変更

コインランドリーの例（オホーツク地方）
外から直接利用可能とし、待合時間に温浴施設やサードプレイス等を利用

調理実習室・会食スペースの例（胆振地方）
庇下空間を介して外部イベントの拠点となる

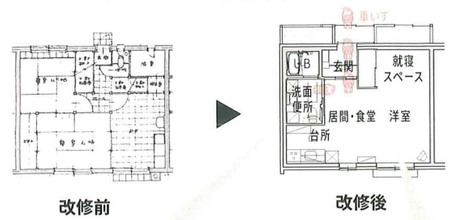
複合施設の弊社実績と本計画への工夫

町民がおのおの過ごすひかりのみちのイメージ



施設全体に広がる町民の居場所

リノベーションによる高齢者住宅の可能性



改修前

既存躯体の上から外断熱改修を行い、躯体保護と断熱性能を向上

改修後

間仕切りを取り払いワンルーム化。車いすや介護スペースのゆとりを確保。

生活のための機能を持つ交流施設が整備されることで、市街地や施設周辺に高齢者のための住宅棟を整備して安全安心の居住環境をつくることができます。一つの考えとして、既存住宅（公営住宅）の大規模改修によって低コストで整備する手法が有効です。公営住宅を高齢者向け住宅に改修するにあたり、躯体以外を解体撤去後、断熱気密を行いながら生活に配慮したオープンなバリアフリー空間として再生することができます。

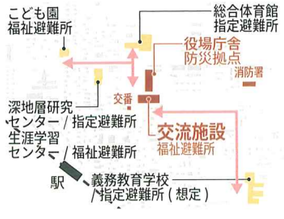
高齢者向け公営住宅の改修実績

2. 災害時のシームレスな機能転換

災害時においては防災拠点となる役場庁舎へエネルギー供給を行い、同時に福祉避難所へシームレスに転換します。

立地を活かした避難所の中心的な機能

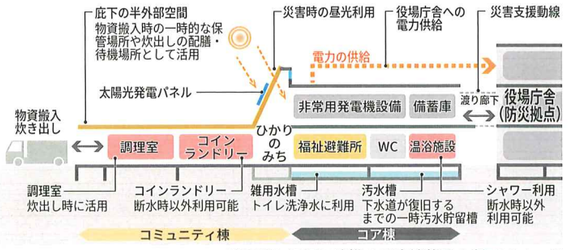
町の中心に位置する立地を活かし、**周辺施設と連携**する福祉避難所となります。生活のための機能があることから、特別な配慮が必要な避難者を受け入れます。また**役場庁舎と連携**できる利点を生かし、ボランティア活動や物資受入れの役割を検討します。



災害時の周辺施設との連携

役場庁舎と連携する RC 造のコア棟

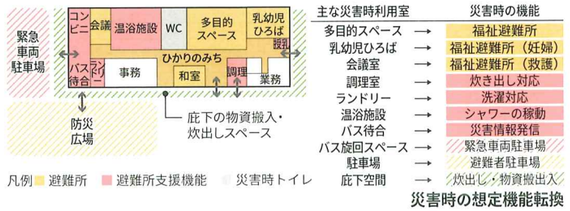
２階機械室は役場庁舎と渡り廊下で直結することで非常用発電機による送電を確実に行い、役場庁舎の**防災拠点機能をバックアップ**します。非常用発電機のあるコア棟を RC 造として**役場庁舎同等の耐震性能を確保**します。



災害時に役場と連携する交流施設の断面イメージ

避難所としてフレキシブルに機能するコミュニティ棟

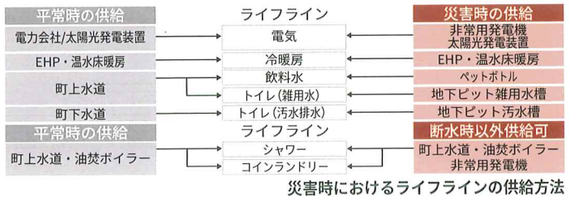
コミュニティ棟を中心にした１階は町民を受け入れる避難所に転換します。避難所として多目的スペース、会議室、和室等を転用し、また屋外の駐車場は緊急車両や避難者の駐車場として機能します。建物周囲の**庇下空間**では物資の搬出入や屋外の炊出しができ、**円滑に周囲と連携した救護・避難活動**が可能です。



災害時の想定機能転換

生活のための機能を維持

上下水道が断絶した際は、洗浄水をピット雑用水槽から供給し、排泄物を復旧までの間ピット汚水槽にため、継続して**トイレ**を使用できる計画とします。また、**調理室**を炊出しに使用するほか、**コインランドリー**、**温浴施設（シャワー）**を稼動させます。汚水槽は復旧時の汲取り、清掃を行いやすいようメンテナンス性にも配慮した位置を検討します。



災害時におけるライフラインの供給方法